



令和8年1月23日
 中津川市立第一中学校
 学校報 NO.14
 生徒数 223人
 電話：0573-66-1534

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

1 はじめに

全国学力・学習状況調査は、中学校3年生の限られた学年が対象であり、今年度の調査教科は国語、数学、英語に限られています。さらに出題は各教科の一部の分野（問題）です。従って、これらの調査によって測定できるのは、「学力の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、下記の結果をご覧ください。

2 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	調査結果の分析(傾向や特徴)
国語	全国平均をわずかに下回っている。自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する問題などの正答率が高かったが、言葉の特徴や使い方に関する問題や文章の構成や展開について根拠を明確にして考える問題などの正答率が低かった。また、無回答率が全国平均よりもかなり高い傾向が見られた。
数学	全国平均を下回っている。「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の全領域において正答率が全国平均より低い状況である。また、無回答率が全国平均と比較し高くなっている。選択式の問題形式に対しては、比較的正答率は高かったが、記述式の問題に対しての正答率が低かった。
理科	全国平均を若干上回る正答率である。電気回路に関する問題や気体の性質に関わる問題、大地の変化と地層に関する問題の正答率が全国平均を上回っている。逆に生物に関わる知識を問う問題や仮説を立てて科学的に探究する問題に対しての正答率が低かった。

3 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・8割以上の生徒が、朝食、就寝時刻、起床時刻等の基本的な生活習慣が定着していると回答した。 ・「自分には良いところがある」の質問に対して、86.2%の生徒が肯定的な回答をした。 ・86.1%の生徒が「学校に行くのは楽しい」と回答し、「友達関係に満足している」が91.4%、「先生はあなたのよいところを認めてくれている」が92.2%の肯定的な回答であった。 ・平日において学校以外で2時間以上勉強している生徒は「全校平均 30.8%」に対して「本校 14.3%」であり、休日において2時間以上学習している生徒も「全国平均 32.5%」に対し「本校 22.7%」である。家庭等における自主的な学習時間が課題となっている。

4 調査結果から明らかになった、課題とその解決のための重点的な取組

①教科に関する課題と取組み

<p><input type="checkbox"/> 「授業や学校生活では友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」の問いについて「あてはまる」と回答している割合が「全国平均 45.5%」に対して「本校 50.0%」と本校生徒の方が高い割合である。仲間と一緒に学ぶことで力を付けていこうとしているのが本校の特徴であるが、自分自身で計画的に学習に取り組むことが課題である。</p> <p>→授業で分からないことは分かるまで質問したり個人で追究したりすることを大切に、その日の授業内容が自分自身で定着しているかを確認することを徹底していきたい。</p> <p>→学びの成果を確認する場面「学びのアウトプット」を授業中に設定し、仲間に伝えたり自分自身と対話したりする活動によって学習の成果を実感させていく。</p>

②家庭生活習慣等に関する取組み

<p><input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣は概ね確立している生徒であるが、中学生のこの時期に大切な家庭学習（読書を含む）の定着に弱さがある。</p> <p>→帰りの会等で1日を振り返り、生活のあゆみを利用して帰宅後の家庭学習の計画を立てる。授業中に理解できたことを、家庭学習において確認し自分自身の定着度を確かめることができるようにする。</p> <p>→市内中学生の一斉アンケートの結果から、画面視聴時間（SNSやゲームを含む）が本校生徒は市内中学生の平均よりかなり長い結果となっている。画面視聴時間を家庭学習時間に移行できるような習慣を身に付けさせたい。</p>
--